

立体商店街

— 光と風の建築 —



01 CONCEPT

多様なワーキングプレイス

新型コロナウイルスが拡大し、リモートワークが普及している現在声の出しづらい状況などで捗らなかった経験はないだろうか。そこで、あらゆるところにリモートワークができる環境があり、カフェや公園イベント会場など、さまざまな年代の人が集まれる空間となっており、その人にあった環境を選んでリモートワークができるオフィスビルを提案する。



02 PROCESS

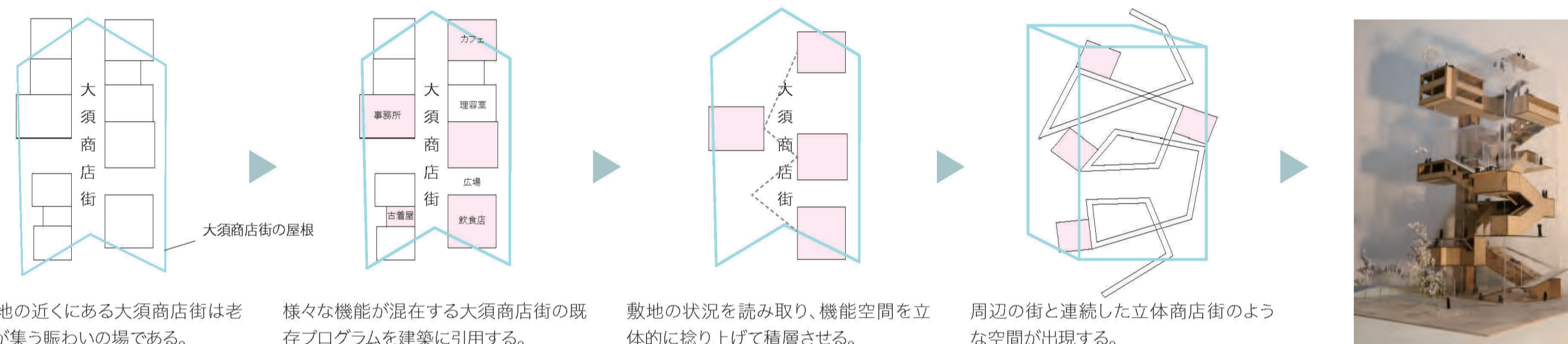
新しい動線

大須エリアは、若宮大通によって名古屋の中心地である栄エリアと分断されている。それにより、大須は独自の「小さな経済」を生み出しており、「大きな経済」である栄エリアとの共存を図っている。人々の動線を観察すると、高齢層は大須商店街に向かうルート（緑色矢印）が多く、若年層は古着屋、カフェの多い通りに向かうルート（水色矢印）が多い。対象敷地へのルートは、比較的賑わいの少ない場所であるため、私は新しい動線（黄色色矢印）を考案する。新しい動線に人々を呼び込むため、黄色色矢印の通りにも商店街の賑わいを生み出そうと考えた。商店街の賑わいを保ちつつ、新たなライフスタイルを発見する場として、商店街の街並みのを複雑に捻り上げたオフィスビルを提案する。



大須商店街

03 DIAGRAM



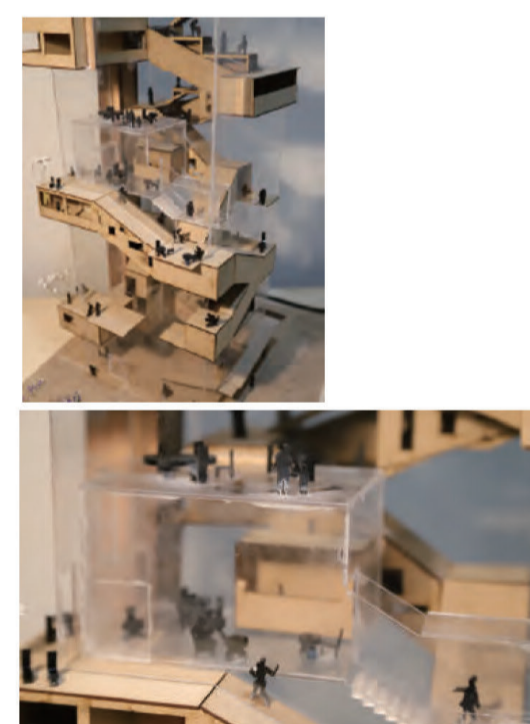
04 FEATURE

空間構成

この建築は骨と肉の建築である。一本の通路に箱が付随していて、図のように箱の外だけどガラスの箱の中という空間に包まれている

ガラス張りの中の外部空間

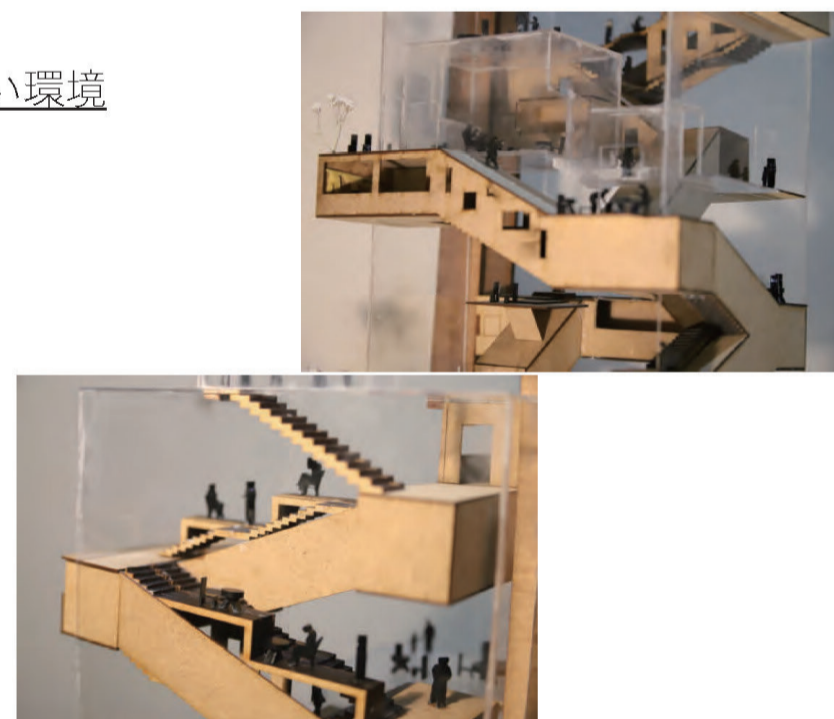
外側のガラス張りの箱の中にもう一つガラス張りの箱を設けその両端を外部と繋げることでほぼ室内のような空間の外部が生まれる。



05 ENVIRONMENT

リモートワークしやすい環境

至るところの階段を拡張することにより、個人の空間を作りやすくし、リモートワークやWEB会議に取り組みやすくなる。階段、カフェ、広場、自分の気に入った環境を見つけることが可能。



06 DOUBLE VOID

2種類の空間

本建築は、捻り上げた通路の中の空間、捻り上げた通路の屋根の空間の2種類の空間があり、通路の中の空間を表空間、屋根の上を裏空間とする。

表空間

表空間は3m画の通路が1階から最上階まで連続しており、通路の中に複数の滞在する箇所、コワーキングスペースがあり、ただの通路ではなく一つの大きな空間となり大須商店街を彷彿とさせる。

裏空間

裏空間は4つの空間に分けて考え、イベントを行う場所、カフェフロア、裏門前公園の延長空間とし、沢山の年齢層が集まる場所、若年層が集まる場所、子供が集まる場所にコワーキングスペースを備えることにより、自分に合った環境を見つけることが可能。

